

環境・社会報告書 2006



環境・社会報告書 2006 目次

ごあいさつ	2
事業概要	3
会社概要	5
企業理念、環境方針	6
企業行動基準	7
コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス	8
ハリマのあゆみ	9
2005年度の主な実施項目	10

1. 環境

環境への取り組み	11
環境マネジメント	13
環境負荷フローチャート	14
環境会計	15
環境負荷低減への取り組み	16
環境配慮商品の開発	19
化学物質の管理	21

2. 社会

従業員とのかかわり	23
社会とのかかわり	25
社会とのコミュニケーション	27
サイトレポート	29

環境社会報告書の記載範囲

- 対象期間 2005年4月1日～2006年3月31日
- 対象範囲 環境マネジメントについてはハリマ化成国内単体(本社、研究所、7工場、営業所)およびハリマMIDについて記載しています。環境パフォーマンスデータは、ハリマ化成国内単体、ハリマM.I.D.および国内関連会社*1 4会社について記載しています。
- 記載項目 環境省の「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」、および「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律(環境配慮促進法)」(2005年4月1日施行)を参考にしました。

*1 国内関連会社

会社名	事業内容
ハリマ観光株式会社	ゴルフ場、ホテル経営
ハリマメディカル株式会社	医療機器の減菌代行サービス
株式会社セブンリバー	工業用洗浄及び製造販売
ハリマ化成商事株式会社	倉庫業務

編集方針

2005年度まで発行していた環境報告書では、環境保全に関する活動について報告していました。本報告書では、そうした環境報告にとどまらず企業の社会的責任全般に報告内容を広げ、報告書のタイトルも「環境・社会報告書」としました。作成にあたっては、顔の見える親しみの持てる報告書にできればと思い、多くの従業員の声を顔写真つきで紹介しました。



代表取締役社長

長谷川 吉弘

基本理念を実践し、 持続可能な社会づくりに貢献します。

当社は創業以来、地球にやさしい天然資源である「松」から得られる有効物質を先進のテクノロジーで製品化して、人々の暮らしに貢献することで、基本理念である「自然の恵みを暮らしに活かし潤いのある豊かな社会の創造を目指す」を実践しています。

この基本理念を継続的に実践することこそが、地球環境に配慮した持続可能な社会づくりに貢献できると考えています。

「環境の世紀」である21世紀において、企業は目先の利益を追うだけでなく、将来の地球のために何をすべきかを考え、率先して行動することが不可欠な時代だと考えています。

環境問題に自主的、積極的に取り組み、企業としての責任を果たします。

2005年3月、加古川製造所内にバイオマスであるトール油副産品を燃料とした発電設備を完成させました。この設備により従来購入していた電気を自家発電で賄うことができ、さらに売電分のCO₂を加味すると2005年度は約6,000トンのCO₂排出量を削減したことになります。

この量は日本の平均一世帯当たりの年間CO₂排出量の約1,000世帯分に相当します。今後もこのバイオマス発電設備を有効に稼働させ、地球温暖化防止に寄与していきます。

当社では地球環境にやさしいものづくりとして、他社に先駆け、鉛を使わないはんだ（鉛フリーはんだ）の開発を進めてきました。この結果、1998年世界で初めて鉛を使わない鉛フリーソルダーペースト（MICROSOLDER®）がMDプレイヤーに採用され、それ以来PDP（プラズマディスプレイパネル）、DVD、ノートパソコン等、数々の電子機器に採用されています。また2006年7月よりEUではRoHS（電気電子機器の特定有害物質使用制限）指令が発効されましたが、当社の鉛フリーはんだは、これにも準拠しています。今後も環境にやさしいものづくりに努めていきます。

社会的責任を果たし、企業価値の向上を目指します。

企業は社会の一員であることを十分自覚し、CSR（企業の社会的責任）をきちんと果たし、企業経営の透明性を高め、企業価値を高めることで当社のステークホルダーの皆さまから信頼を得て、社会に貢献できる企業を目指します。

2003年に制定した「企業行動基準」に則って、事業活動を進めることが当社のCSRの基本であると考えています。

なお今回より、報告内容を広げ、タイトルを「環境・社会報告書」としました。ぜひご一読いただき、皆様のご意見をいただければ幸いです。

ハリマ化成の未来は、 この豊かな自然と共生することで 拓かれます。

地球の誕生から遥かなる歳月をかけて創造された自然界のバランス。それは、わたしたちが決して崩してはならない、地球に生きるもの全ての生命の源です。

ハリマ化成の事業は「パインケミカル事業」と呼ばれています。パインとは松を意味し、パインケミカル事業は、自然の中で育まれる1本の松の苗木から始まります。松は、石油や石炭のような限りある資源とは異なり、植林することで半永久的に再生可能な地球環境にやさしい天然資源です。松は、約20年かけて成木になり、製紙用材料としてパルプに加工されますが、ハリマ化成では、その際に副産物として抽出される粗トル油から「ロジン」を得て、このロジンを原料に、環境にやさしい印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、接着剤用樹脂、合成ゴム用乳化剤、製紙用薬品、電子材料、アルミニウムろう付け材料など、さまざまな製品を開発して人々の暮らしに貢献しています。

松から得られるロジンは、紀元前より水漏れ防止剤に使われたり、古代ギリシャでは、照明や宗教的儀式に使用されるなど、古来から人々の生活に利用されてきましたが、ロジンには、粘着力、防水力などの化学的特性が認められ、今日では、化学工業原料として多様な場面でその機能を発揮しています。

ハリマ化成は1947年の創業以来、自然の恵みであるロジンの化学的有効利用を迫りながら、事業活動の源であるロジンを途絶えさせないために「自然に負荷をかけない生産システムの構築」「自然環境にやさしい製品の開発」を通じて自然と共生する「循環型事業」を実践しています。



印刷インキ用樹脂

環境にやさしく、印刷を美しく仕上げ、速乾性により印刷スピードをアップさせるインキ用樹脂の製造で高度情報化社会に貢献しています。



塗料用樹脂

カラフルな色で人々の目を楽しませる塗料。仕上がりの美しさはもちろん、環境にやさしい脱有機溶剤化を実現した高品質な塗料用樹脂をお届けしています。



接着用樹脂

接着剤の粘着力をアップする粘着付与剤。環境にやさしく、ポリエチレンなどのプラスチックにも抜群の粘着性を発揮するロジン系粘着付与剤を提供しています。



合成ゴム用乳化剤

自動車タイヤなどのSBRという合成ゴムの製造工程に欠かせない乳化剤。日本の自動車のタイヤの半数、2本に1本にはハリマ化成の製品が活かされています。



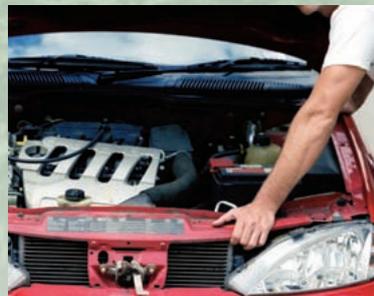
製紙用薬品

インキのにじみを防ぐサイズ剤、紙の強度を向上させる紙力増強剤、印刷適性を高めるコーティング剤など、幅広い種類の製紙用薬品を製造しています。



電子材料

電子材料の分野では“クリーン&ファイブ”をコンセプトに省資源、省エネルギー、自然環境との調和をめざした製品を開発しています。



アルミニウムろう付け材料

自動車に使用されている熱交換器はアルミニウムろう付けが必要です。ハリマ化成はブリコート法で新しいろう付け材料を開発しました。これにより熱交換器は軽量化され燃費が向上し、CO₂の削減にも貢献しています。